

○感情を抑圧しないこと（53年11月16日）一弘
超能力^も開発するには、先づ心（マインド）^に
動揺が無いことが必要である。しかし人間の
感情は、その肉体から由来する気分や、環境
のいろいろの影響や刺激を受けて、^一瞬と雖
も平靜ではあり得ないものである。
しかし、我々人間が最も人間らしく高度に発
達した所以^エは、その大脳皮質の中でも、前額
部前頭葉の花達^に拠るものであつて、そこで
観察や判断や、そして夫^意を^をするのがあるが、

それらの知的の作業の資料は、人間に於ては概ね学習して大脳皮質の何れかの部位に蓄えられ、その知識に拠るものが普通である。人が感情の起伏の波に溺れ、揉まれている間は、他の^{此の}地球上の自然界の生物の如くに、その祖先達から遺伝されたる如く、生きるため都合が良い反射運動のスペアを、潜在意識として大脳のいづれかの部位に置き忘れてしまっているのである。また、体外情報に拠る知識^を拒使する知性も、未だ、その遺伝情報

と自由に行動する事や無いものである。そこ
 で必要なる事は人間や常住座臥、無関係では
 あり得ないところの感情は我々の知識による
 ところの知性で処理をする事にして感情の波が
 自然におさまるようになる事である。つまり、
 うれしい時は、それなりに悲しい事は、その原因
 を究明し、恐ろしい事には対処の方法を採る
 べくまた怒りには研究の上で然るべき対策を
 たてるようにする事。その感情や肉体的の気
 分や理由来するものであれば、とにかく医療

を受けざるべきである。やくして知性によつて
一応の精神的の処理を済ました上で私は私が
この地球上の自然界の生きものである事を知
り、そしてその中でも最も高度に大脳の発
達を得た人間である事を認めて自然的に宇宙
的に邪念なく生きる事に徹するのである。
仏教では禅によつて、あるいは念仏によつて
悟る事につとめ、その他の宗教は神やその代
替の対象に祈る事によつて、もうものの感情
を淨福して、払い清め

て、神仏の援けを得て、己れの潜在意識と探
り出そうとするか、私は、先づ感情を無理の
ない方法で納得の上で静め、そして、知性を
拡大して宇宙心とも云うべき程度にまで、それ
を私心邪心の無いものにすること、扱つて、自か
らの潜在意識を引き出し、でき得る限り、それ
を常時活用したいと努力しているものである。
宇宙心である故に、一個人や一グループの抱
く感情である妬み、怒りや、妬み、妬みや復讐心
等は、これ邪心であり、私心である。預らく、明快に

明朗に、そして前向きで、自由自在な積極的で肯定的なものでなければならぬ。

宇宙心を持つことを得たとしても、尚且つ

人間は個体に拠つて生きるものであれば、茲

で堂々と、己れの個性を保持する爲めの努力を

必要である。此の地球上の自然界で、大々所高

~~事~~から^知の見地以外で、悲しいままに自殺を考へ

たり、己れが此の自然界に生れ出て来ること

不満の心を持つたりする生きものは、人間の外

には居らない。此の自然界の動植物は、皆悉く、

生れ出て来て、そして真剣に生きているの

である。